



MBニュース



【2017年度産銀杏情報】

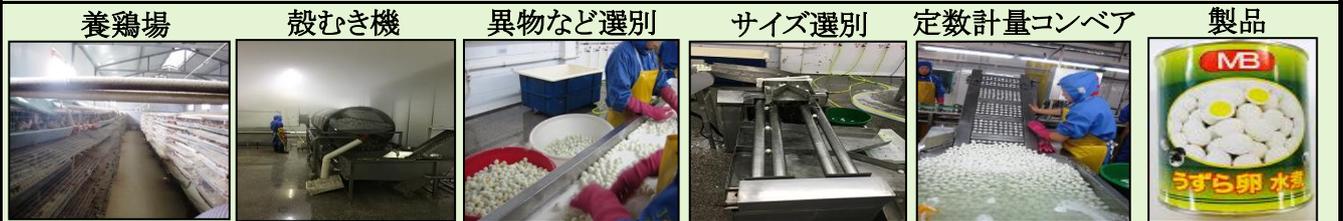
丸松物産株式会社

広西省産の今期の収穫も例年通り10月初旬から開始され11月下旬で終わる予定とのことです。近年銀杏は市場価格が低迷している為、農家の生産意欲が減退し、総生産量は約1,800~2,000トンと予測され、横這い状態が続いております。原料比率はLサイズ35%、Mサイズ35%、Sサイズ23%、規格外7%と予測されます。昨年はMサイズ60~70%の比率で多く、Lサイズ20%、Sサイズ10~20%で少なかったが、今年は然程変わらない比率で収穫されております。製品価格に関しましては、人件費や資材費、燃料が上昇している為、これらの事が製品価格に影響を及ぼすおそれがあります。



【うずら卵工場視察】

10月中旬に弊社品質保証室員と貿易部員2名で工場を視察致しました。工場内はしっかりと管理整理され清潔に保てられておりました。うずらは自社で3万5千羽養鶏しており、養鶏場もしっかりと管理されておりました。現状うずらは、タイ・ベトナムの鳥インフルエンザの影響で、中国への注文が増えているとのことですが、卵から孵化し成鳥して卵を産むようになるまで55日程掛かるので、急な増産には応じられないとのこと。国内産のうずらも原料が不足しており、高値が続いていると日本経済新聞にも掲載されておりました。



【ウズラ卵、高値続く】

うずらの卵の高値が続いている。指標となる愛知県豊橋市場の卸値は現在30個あたり219円と5年前に比べ2割高い、採算悪化に苦しむ農家の相次ぐ廃業や飼育数低下による供給減少が背景にある。「1989年に800万羽ほどいたウズラは今では400万羽程度まで半減してしまった」。卵の販売価格の7割を占める飼料の高値で農家の採算が悪化。ウズラは鶏と比べ高栄養な餌を必要とし、餌代が高額。生産者数も限られるため行政からの支援も少ない。「飼料はこの5年間で約3割値上がりしている」という。「利益率が悪いので離農が進む。供給は年々減っている」全国的にも農家の廃業が進む。主産地の愛知県の農家数は2016年2月時点で22軒。5年前に比べ3割減った。

2017年10月13日日本経済新聞朝刊より一部抜粋

【新商品情報】

	商品名	俺のおつまみメンマ(もつ煮)	
	商品説明	国産の豚もつと玉葱を使用し味が染み込んだ味噌仕立てに仕上げしております。	
	主要原材料	メンマ・豚もつ・玉ねぎ	
	賞味期限	製造日より6ヶ月	
	使用上の注意	賞味期限は未開封の状態を基準としております。開封後はお早めにお召し上がり下さい。	